

# 子牛の離乳時には母牛のみを別の牛房に移動させましょう

## 【背景・目的・成果】

黒毛和種子牛において離乳時の発育停滞が課題となっています。離乳時のストレスとしては①母子分離によるものと②牛房移動によるものがあることから、離乳時の母子分離の方法を検討した結果、子牛を牛房に残し母牛を移動させる方法(①)により、子牛のみを移動させる一般的な方法(①②)よりもストレスが軽減し、発育が改善することが分かりました。

## 【方法】

黒毛和種子牛48頭(♂22、♀26)を、離乳方法の違いにより2区に分けました。4か月齢時に試験区は子牛を牛房に残して母牛を移動させ、対照区は子牛を別の牛房に移動させて、離乳しました。

## 【結果】

試験区は離乳と同時に牛房移動をしないことで、離乳後の子牛の歩数と発声回数が少なくなり(図1、2)、乾物を多く摂取しました(図3)。離乳後の発育停滞も抑えることができました(図4)。

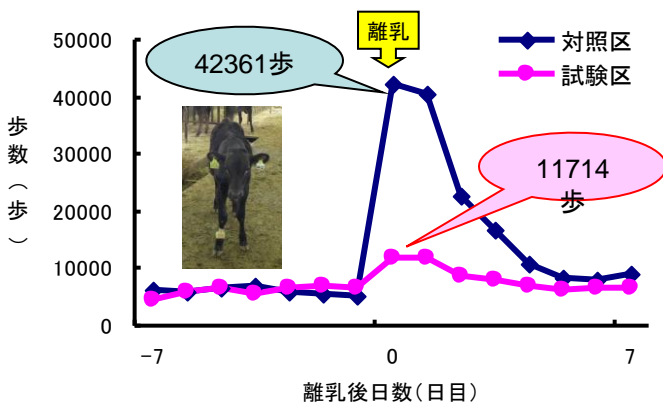


図1 離乳前後の子牛の歩数

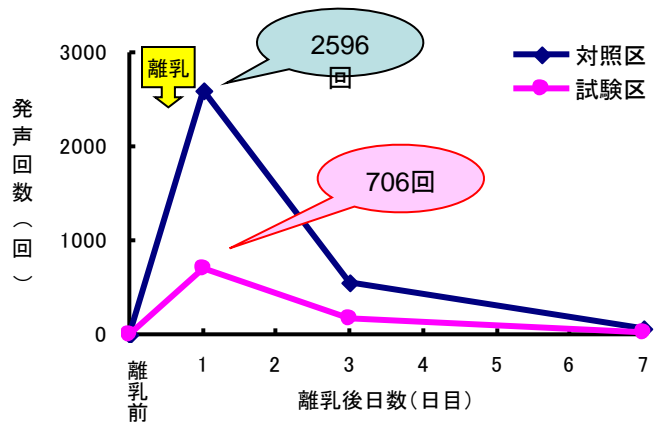


図2 離乳前後の子牛の発声回数

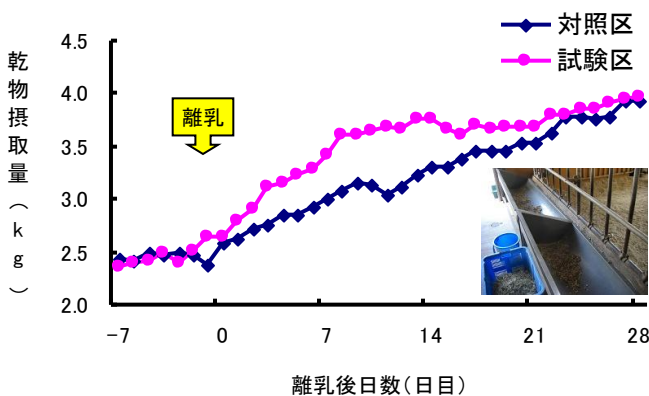


図3 離乳前後の子牛の乾物摂取量

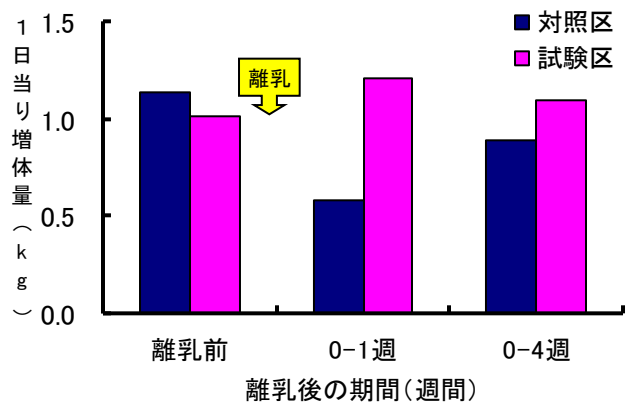


図4 離乳前後の子牛の1日当りの増体量(去勢)

## 【技術の活用】

農業改良普及センターや家畜保健衛生所、JAを通じて子牛の育成指導に活用します。今後は、母子分離と子牛の牛房移動を別々に実施する際の具体的な方法や最適な間隔を検討します。